

## 大阪北区「扇町創造村構想」と印刷業界

大阪市立大学大学院創造都市研究科・塩沢由典教授が語る

クリエイティブ環境創出の機運作り

大阪を 21 世紀型産業構造に

全ての創造者が集い、刺激しあえる街を

物造りが大切なことはもちろんだが、21 世紀を考える時に物造りだけでは答えは得られない。18 世紀までは国民の 70～80% が農民だったが、今は先進国だと、どの国でも 3% ぐらいになっている。また工業も、まだ日本は 22% ぐらいあると思うが、大きな数字を持っていたのが各国でどんどん下がっており、たぶん 2030 年ごろには 10% を切ってしまうだろう。

そうすると、第一次・二次・三次産業が分裂して四次・五次産業というような形になっていく。この四次・五次産業を延ばしていく以外に産業構造を発展・拡大することは出来ない。これは大阪・関西を考える上でも非常に大きなカギになるのではないかと思う。

第四次産業・第五次産業の定義はハッキリとはなく、人によって色々な言い方がされているが、第三次産業の中の「その他経済活動」という分類内容が、イタリアを除く多くの国々で 50% まで来ている。半分以上が「その他」というのは、現状での統計が追いついていないという側面もあるが、飲食業まで含めるとだいたいこんな感じで、ここまで来るとイタリアも似たような感じになる。

扇町創造村構想は、実際に大阪を変える取り組みとして考えた社会実験型の研究テーマで、今後への一つのモデルケースにしたいということです。扇町を中心として北区のほぼ全域、中之島だけ除いたあたりを考えています。

目的はこの地域にある創造活動をショーアップすることですが、実態としては、かなりの集積があるにもかかわらず、そのことを意識せずに動いている。従って横のつながりも出てきていない。

クリエイティブな世界にいる人々が、ここで仕事ができることが分かってくれば活躍の場を得ることもできるし、そのことが広く認知されれば全国から有能な人々も集まってきてここで活躍できる。そういう機運を扇町創造村構想によって作り出せばいいと思っている。大阪から新しい動きを作り出すことによって、日本全国や世界に向けて 21 世紀型社会環境の姿を発信することができるようになれば、人々はここに帰り、新たな経済活動が始動する。

この地域には、いろいろな特徴がある。例えば、テレビ局や新聞社などが地域内にあり、

デジタルハリウッドやメビックなどの機関もかなりある。私共の大学の創造都市研究科もここにあるし、宝塚造形芸術大学もある。そうした機関、企業に応援してもらえればさらに機運は高まるだろう。

映像ソフトはパーセンテージからいえば非常に高く、大阪の中ではこの辺りに集まっている。劇団なども9グループがあり、大阪の劇団の17%に当たるが今までの実績からいうと小さすぎる気さえする。扇町ミュージアムスクエアがなくなったことによる結果ともいえるかと思うが、劇場はかなりの集積がある。ライブハウスは、実際に制作する場所、見に行く場所、子ども向けの劇場など年齢層に比例した格好で存在する。各種学校についても予備校やビジネス専門学校、人材育成の機関など数多くあり、若者が集まる街という意味でも重要な特性になっている。美術学校、外国語学校、タレント養成学校など、東京にはあってもほかの府県にはないものがかなりの率で集まっているのが北区だといえる。

## 大阪で「デジタルときわ荘」の構想

この地域の喫茶店やレストランを拠点に、話し合いの場を作っているのも特徴の1つと言える。私が時々出ているのは「哲学カフェ」というもので、すでに80回を超えている。哲学カフェというのは、フランスのマルク・ソーテという哲学者がバスチーユ広場の横にある喫茶店で始めて有名になり、フランスやドイツなどで流行になったと言われるものだが、本人は死んでしまっている。日本でもこの運動をしたいという人たちはいるが、定期的で開催されているのは調べる限り大阪だけらしい。

大阪大学の臨床哲学研究室の鷺田先生が他所でやっているのが年に数回ありますが、こちらは毎月やっています。全く別ですが二つともそろっているという意味で大阪は日本でもっとも哲学的な街といえる。あまりそういうことは言われたいとは思いますが、あえてこういう表題を掲げるのも意味があるのではないかと考えている。

音楽の街としても、寺院の中でやる天満音楽祭は去年で5年目でしたが、たくさんの人たちが集まるようになり、仏教音楽とポピュラーなものと一緒に面白くなった面白くなっている。

「デジタルときわ荘」という構想があり、これは東京に漫画化が集まったトキワ荘があったのを模して、今度は大阪版で、しかもデジタル版でやろうという構想です。マンガではなくて中心はCGアニメですが、扇町の水道局が居たビルにITベンチャー企業を誘致していますが、その中の1社がすごいソフトを持っていてリーダーや苦になっている。それに大阪市が支援していく動きを見せている。

大阪は「水の都・食の都」と言われるが、やはり両方を併せ持ったところが要るのではないか。「最高の景色で最高の食事を」ということで、一番簡単なのは大川沿い、ここを特区としてレストランなどを建てられるようにすれば、水が近くて、きれいな景色があって、

しかも食事としておいしければ観光客を呼べる所になると思う。

扇町創造村構想は、簡単に言えば「もっと面白い街にしましょう」という動きを喚起する運動ことで、芸術家、クリエイター、編集者など、第四次産業、五次産業を今後作り出す、またはその原動力となる人たちが集まるようにしていくことだといえる。

そうしたクリエイターたちがここで活躍することによって、自分の名前が売り出せる機会を作り出すことが重要になる。その意味では、クリエイターに発注する側のやり方なり慣習を変えてもらう必要性も出てくるだろう。現にかなりの実績があるのだから、その人たちの中から意識を変える先端的な動きが出てくることも期待できる。

マスコミや大学院があることも、短いサイクルで情報が回るということで非常に有効ではないかと思う。普通は情報発信というと東京に行って、日本全国に発信したいと考えるが、それだと東京の価値観で情報の選択が行われる。そうではなくて、われわれ自身でこれは面白いと思うものをどんどん強調していくことによって、大阪には東京にない傾向と芸術があるということを発信していくことが大切なのです。

経済的にいえば第五次産業を育てるということですから、地域全体が第四次産業、第五次産業を育てるインキュベーターとして、芸術や創造に生きる人々の数を呼び込み、その人たちが集まった結果としてインタラクションが起こるようにすること。それによって、自然と何か新しいものが生まれてくるのではないか。それが大阪を 21 世紀型の産業構造に変えていく大きなきっかけになるのではないかと思う。

物作りといっても定番商品で出せるものは、中国やインドとの競争に追われてきている。今、特に大阪府下の地場産業は苦しいが、こういうものをきちんと作っていくことによって、イタリアが世界の中でファッションの中心として生きているように、大阪も活性化された特徴ある都市に再生しなければならない。

## 創造的職業と鑑識眼を持つ市民

扇町創造村のような運動は、どの都市のどの地域でも展開できるというものではない。各種の創造的職業の厚い蓄積と、作品に対し強い関心と高い鑑識眼を持つ市民との幸運な結合を必要とする。大阪北区には、そうした結合が現にある。芸術村運動は、ゾル状態にあるこれら諸要素にニガリを放り込み、ゲル状態に変化させることに他ならない。

これはインキュベーションというには、余りにも遠大な野望と見えるかもしれない。また、町全体をインキュベータとするという考え方がいかにも迂遠なものに見えるかもしれない。しかし、第4次産業、第5次産業の特性を考えると、これは実は目的達成に最も適切な道だと考えている。

そのような産業を育成するには、個別芸術家・クリエイターの努力にのみよることはできない。彼らも一つの環境の中にいる。あらゆる創造者たちが相互に刺激しあう環境と創造

活動を収入に変えるメカニズムとを必要とする。大阪北区は、これを可能にする稀有なチャンスをもっている。扇町創造村運動は、このチャンスを現実化する試みといえる。

第4次産業、第5次産業への転換は、いつでもできるものではない。第1次産業、第2次産業に就業時間の大部分を割かなければならない状況においては、第4次産業は育つことはできない。いまは、第2次産業はもちろん、情報通信技術の発展によって第3次産業の一部も大きな省力化が可能になりつつある。それは反対の策面からみれば、第1次産業、第2次産業への従事者数が減少することを意味する。古典的な第2次産業と伝統的な第3次産業のみでは、いずれは衰退しなければならない。途上国との競争に負けて衰退する都市では、広範な芸術活動を支えることはできない。

大阪は、現在、衰退する都市と持続的に発展する都市の分岐点にいる。扇町創造村はこうした分岐点において、大阪を持続的発展の方向に引き込むためのものでもあるのです。